

タイトル	竹林内での竹炭焼き(ポーラス竹炭等)		
概要	竹林伐採現場で竹を製炭し、土壌改良資材として活用。また希望者には竹炭窯の余熱を用いたサウナ利用も随時実施。		
管理方法・技術的視点	<p>竹林伐採現場で炭焼き窯を設置し、本格竹炭(平炭等)を焼くと共に、竹の先端部等を利用し土壌改良資材等の用途を主目的とした竹炭を生産している。</p> <p>竹林内での製炭作業は、周囲の竹林が防火帯の機能を果たしてくれることから、安全であり、コスト面でも有利である(従来約1/5)。</p> <p>生産された柔らかい消し炭の竹炭は、大きな穴がいっぱい開いており、水や空気を保持しやすく土の物理改良効果が高いため微生物の生息環境として有効であるとされる。このため農地への施肥に適しており、「ポーラス竹炭」(“多孔質の炭”と言う意味)と名付けて生産販売している。</p> <p>また、希望者には竹炭を取り出した後の窯の余熱を温浴サウナに利用するなどのユニークな活用も行っており、交流等で利用されている。</p>		
備考	<p>昭和50年代タケノコの大暴落に伴う竹林の管理放棄で、竹林の荒廃とイノシシによる獣害が発生。ボランティアによる竹林整備だけでなく、本当においしいタケノコを食べるというコンセプトから実践を開始。</p> <p>農業利用をはじめ諸産業と連携することで、持続的な竹林管理を目指している。</p>	<p>竹炭窯を軸とした多様な里山林活動展開</p>	
場所・主体	静岡県南伊豆町 みなみいずたけ炭ひろば		
URL等	http://www.jafta.or.jp/13_sanson_hp/jirei/mori-yama/jirei9-1.html		